

第 9 回

川でつなぐる発表会

かいさいほうこく
開催報告

川でつなぐる発表会



川でつなぐる発表会

●平成 26 年 2 月 9 日 (日)

●川越市立仙波小学校

新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会



開催概要

趣旨

新河岸川流域では、総合治水対策や水循環再生、多自然川づくりなどのいい川づくりに向けた取り組みの一環として、行政や市民団体、流域住民が情報・意見交換をする場として、「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催しています。

川でつながる発表会は、「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動の一環として、流域内の小学生から大学生までが行った、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動の成果を発表し、意見を交換することで、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、世代を超えた交流が生まれるきっかけをつくることを目的に開催するものです。

■開催日：平成26年2月9日（日）10：45～16：00

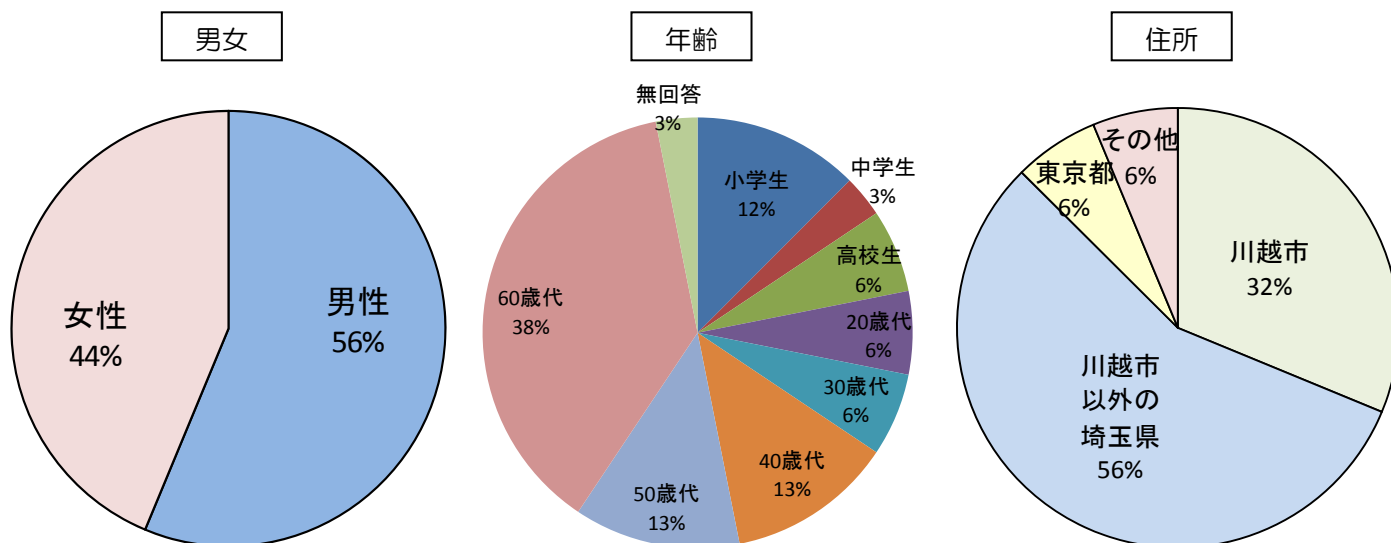
■開催場所：発表会本会場・交流会会場 川越市立仙波小学校 体育館
※積雪のため現地見学会は本会場内での講演に変更して実施

■主催：新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会

■参加人数：約90人名（事務局除く）

参加者構成比：

n=32（アンケート回答者）





■当日プログラム

時間	内容	当日の様子
10:00	受付	
10:45	開会	前日までの大雪が残っていたため、開会を15分遅らせての開会となりました。
	挨拶	 <p>午前の部（現地見学会）開会に先立ち、かわごえ環境ネット武田さんより「多くの関係者の協力を得て、新河岸川の源流域である川越で発表会が開催できることがうれしい。」という挨拶がありました。</p>
10:50	講演 ※現地見学会から変更して実施	<p>積雪のため現場見学会は中止となりましたが、会場で新河岸川に関する講演が行われました。参加者は、普段はなかなか聞くことができない新河岸川の成り立ち、人と川との関わりの変遷や、使用した後の下水処理の話について興味深そうに耳を傾けていました。</p> 
13:00	挨拶	 <p>午後の部（発表会・交流会）開会に先立ち、川越市立仙波小学校長より「川越市立仙波小学校を会場に選んでいただいて感謝している。今回の発表会を含めて交流を深めていきたい。」という挨拶がありました。</p>
	発表会 発表（前半） コメント 質問	<p>発表会（前半）はグリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/早稲田大学理工学術院、法政大学、川越高等学校から流域内での活動成果について発表がありました。</p> 
13:55	交流会 総合治水対策・ 水循環授業	<p>川越市河川課宮川さんより、自然の中での水循環、人々の生活が関わっている水循環について説明がありました。また、小型雨水貯留槽の設置等、仙波小学校で取り組まれている総合治水の取り組み事例の紹介がありました。</p> 
14:05	交流会 パネル展示 クイズラリー	<p>参加者同士の交流を促進させるため、様々な団体からの出展がありました。中には、新河岸川で見られた鳥の写真、雨水貯留浸透マスなどユニークな展示物もあり参加者の注目を集めていました。</p> 
14:35	発表会 発表（後半） コメント 質問	<p>発表会（後半）は明法中学高等学校、仙波小学校から流域内での活動成果についての発表、ふじみ野少年少女合唱団/バーベナコーラス/赤い靴から川に関する合唱発表がありました。</p> 
15:20	表彰状授与	<p>荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状授与の際は、少々緊張気味の顔つきも受けとった後はみんなとても満足そうでした。</p> 
	講評	 <p>最後に、柳瀬川流域ネットワーク宮本さんから「今回の発表会に参加して、流域への思いをつなげることができたと感じた。今後は、相互的な交流をもっと進めていけるように新たな取り組みを行って行きましょう。」という講評がありました。</p>
16:00	閉会	
	記念撮影	<p>恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。悪天候の中、多数のご参加また熱心にご聴講いただき、ありがとうございました。</p> 



発表校紹介

■グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/早稲田大学理工学術院■

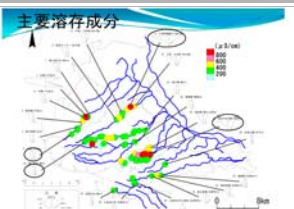
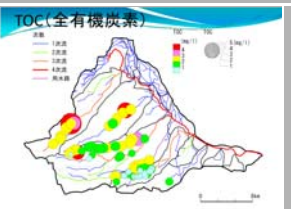
たるいどかわ
緑の森博物館と樽井戸川



グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢からは、まず、代表の齊藤氏より、樽井戸川についての紹介の後、グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢の活動状況について説明がありました。樽井戸川は、かつては水質のワースト1であった河川でした。グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢は、樽井戸川の源流域に位置する「さいたま緑の森博物館」で、植物や昆虫の観察会や、40年近く手が入っていなかった雑木林での常葉樹の伐採、下刈りや落ち葉かき等の活動を行い、水源の保全の取り組みを行っています。続いて、早稲田大学理工学術院 大堀氏より、樽井戸川の水量と水質の変遷について説明がありました。樽井戸川は、かつて生活排水が多く流れ込んでいた時代は、川の水量の増加とともに水質が悪くなっていたのですが、最近では下水道の整備の進展により生活排水の流入が少なくなり、雨が降って水量が増加しても、水質は川の水の希釈効果により良くなっています。このことから、人為的な汚染を受けていない川の流量を増やしていくことが重要であり、その意味で、雑木林の手入れは重要であるとの説明がありました。まだ取り組みを始めたばかりですが、毎月の講習会や雑木林の手入れを続けていきたいとのことでした。

■法政大学水文地理学研究室■

水環境の現状に関する水文地理学的研究～新河岸川流域南部を中心として～

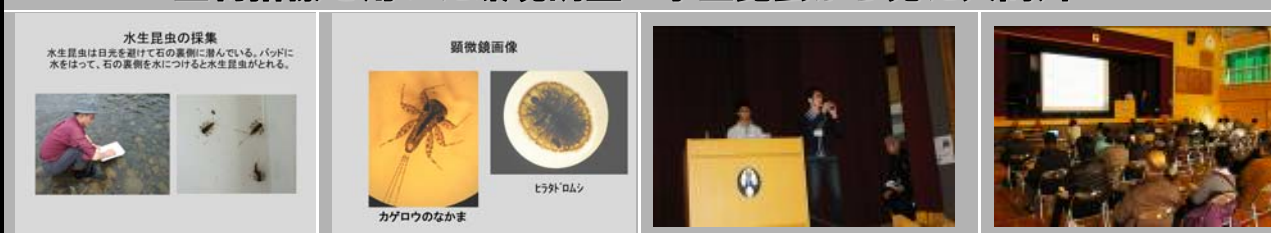


法政大学水文地理学研究室からは、2013年度の「全国身近な水環境一斉調査」の採水サンプルの分析結果に基づき、詳細なサンプルが得られた流域南部の地域特性の把握について発表がありました。調査地点は80地点、水質は、pH、RpH、EC、TOC、主要溶存成分が分析されています。水質分析の結果、pHは東川で高い地点が多いこと、ECやTOCは処分場等の上下流で急激に変化する地点があること、主要溶存成分はNaイオン、Clイオンが下流に行くほど増加していること等、空間的な特徴を把握した結果が説明されました。また、水質項目間の関係性を整理した結果からは、CODとTOCは概ね相関関係はあるがCODの低濃度領域ではTOCにばらつきがあり、CODでは見えない水質の違いをTOCは分析できるといったTOCの有用性、ECとTOCの関係からは水質の汚れ方には様々なタイプがあるといった可能性、ECと主要溶存成分の関係からは流下方向にECとNaイオン、Clイオンが増加することから人為的な汚濁負荷が表現されていること等の考察が説明されました。さらに、「全国身近な水環境一斉調査」の実施地点の分布状況に偏りが見られたことから、今後の調査は地点を継続する等の工夫により、調査の量から質の充実化を図る重要性についても提案がありました。



■埼玉県立川越高等学校■

生物指標を用いた環境調査～水生昆虫から見た入間川～



埼玉県立川越高等学校の地学部と生物学部からは入間川での水生昆虫の調査を通じた水質の研究の発表がありました。まず、入間川周辺の地形の成り立ちや河岸段丘と土地利用の関係等について説明されました。入間川には、秩父山地から流れてきた硬い石のチャート、砂でできた砂岩、マグマが固まってできた閃緑岩等が見られるそうです。調査では、石の下に見つけた茶色い岩からアケボノ象の化石を発見し、後日、地学部で化石を採取したそうです。入間川では、水温、バックテストによる pH、COD の水質調査と水生昆虫の調査が行われています。水質調査の結果から、pH は中性で生物にとって住みやすく、COD は低く水の汚れも少ない状況が確認されました。水生昆虫は、きれいな水を好む種、きたなくても棲める種、流れの速い場所・遅い場所を好む種があるので、これを指標として水生昆虫を調べることで、その場の水質を確認することができます。調査では、きれいな水を好むカゲロウやカワゲラ、さらに流れが速い場所を好むトビケラが見つかりました。その他、ヒラタドロムシ、ヘビトンボ、ミズムシ、ナミウズムシも見つかったそうです。平成 21、23 年に実施した調査結果と比較したところ、以前も現在も水はきれいだと判断されることを確認しました。入間川のほかでは、伊佐沼でも調査を行っており、伊佐沼では pH が高いことから、今後研究の対象としていきたいとのことでした。

からほりがわ
空堀川を考える会 小倉さんによるコメント
発表後にコメントータから各発表者へ、
以下のようなコメントがありました。



①グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢 /早稲田大学理工学術院

グリーンフォレストネットワーク所沢の目標としていること、地域の状況や活動内容についてとても良く分かりました。川にとって、里山を管理することが、いかに大事かがよくわかりました。今後とも是非活動を頑張っていたきたいと思います。

②法政大学水文地理学研究室

専門的で膨大なデータを扱われていました。異常値と思われる高い値を示すデータが見られましたが、疑問を持って原因を追求し、深堀りをしていくといった観点も持って研究に取り組みされると良いと思います。水質項目同士の比較はとても詳しく分析されていると思いました。

③埼玉県立川越高等学校

入間川の生物調査は規模が大きく大変だと思いますが、調査は継続することが大事ですので、是非頑張ってくださいと思います。また、地形の成り立ちや石から調べていき、その中でアケボノゾウの化石を発見するなど、専門性を発揮した素晴らしい研究成果だと思います。



■明法中学高等学校 科学部■

23年度 水質調査年間記録報告



明法中学高等学校科学部からは、6月に参加した^{のびどめ}野火止用水での全国身近な水環境一斉調査、毎週土曜日に交互に実施している野火止用水と^{からぼりがわ}空堀川の水質調査結果について発表がありました。科学部では、普段はソーラーバイクの作成やソーラーパネルを使ったイルミネーション等にも取り組んでいるそうです。全国身近な水環境一斉調査では、野火止用水を歩きながら、水の透視度の測定やユスリカ等の虫の状況、ゴミの量等についての調査が実施されました。環境がいいと感じる地点があれば、水辺に近づきやすくしてあるのにゴミが捨ててあって残念に感じた場所、ゴミがとても多く環境が悪く感じた地点があったそうです。野火止用水と空堀川での水質調査は、パックテストにより、pH、COD、NH4、NO2、PO4が測定されています。野火止用水は水質がきれいに保たれていました。空堀川はpHがかなり高かったのですが、原因は調べている途中だそうです。昨年度と比較してCODの平均値が低くなっていることから、水がきれいになっているのではないかとこの考察が行われていました。今後も調査を続けて行きたいとのことでした。

■川越市立^{せんば}仙波小学校■

水質の謎を追って



川越市立仙波小学校からは、^{しんがし}新河岸川の歴史や環境、生活の中で使っている水について調べて、川の水をきれいにするために何ができるかを調べた結果について発表がありました。

新河岸川は江戸時代から昭和初期まで舟運が盛んで、今も川越では多くの江戸の文化が見られます。かつて使われていた^{たやぼし}田谷橋ミニダムや^{かしぼ}河岸場が残っていて、昔からの人と川との関わりの景色が残っています。新河岸川には、カモやサギ等の水鳥、コイを見ることができました。これらの生物は、植物の種、水草や昆虫、魚やカエル、エビや貝などを餌にしており、多くの生物が生息していることがわかりました。また、川の水は、ゴミや水のおい、色が場所によって違うことがわかりました。浄水場の見学を通じて、私たちが使っている水が、多くの手間や時間を使われていることを知りました。

川の水をきれいにするためには、水を汚さないようにすること、無駄使いをしないようにすることが重要です。そこで、私たちの生活の中でできる取り組みについて考えました。歯磨きをしている間の水の節約、フライパンの油は拭き取ってから洗う、洗濯にはお風呂の残り湯を使う、服に付いたごみ・砂は手で払ってから洗濯する、シャンプーやリンスは必要な量だけ使う。どれも簡単にできることなので皆さんもやってみてください。



■ふじみ野少年少女合唱団/バーベナコーラス/赤い靴■

合唱「つながる～不老川のうた～」

作詞・作曲/佐々木信綱

穏やかな流れ
それは心のふるさと
武蔵野の地をただ一途に
走る一筋の線

たおやかな流れ
それは正に爽やかで
心の中をただ一途に
走る一筋の線

流るる 流るる
この川の美しき想い
つながる つながる
あの海へ あの空へ あの天まで 届け

清らかな流れ
桜の花びら乗せて
この街の微笑みも乗せて
走る一筋の線

銀色の水面
夏空に貼が踊る
透明な秋の夕風に
彼岸花 そっと揺れた

流るる 流るる
年とらず古（いにしえ）の川
つながる つながる
あの海へ あの空へ あの天まで 届け

流るる 流るる
この川の美しき想い
つながる つながる
あの海へ あの空へ あの天まで 届け

ふじみの少年少女合唱団、バーベナコーラス、赤い靴のメンバーで構成された団体から、合唱の発表がありました。合唱の前に、「不老川のうた」を作詞作曲した佐々木氏から、不老川の思い出や曲を作成した経緯について説明がありました。佐々木氏は、はじめて新河岸川流域で釣りをしたのが不老川だそうです。最初は「なんて汚い川なんだろう」という印象でした。その不老川に5年ぐらい前に行ったところ、アユが遡上していることを見たときは信じられなかったそうです。川の水をきれいにするために、新河岸川流域の人々が一緒に取り組みを行っていることを知り、感銘を受け、敬意を表する気持ちで、不老川をテーマに曲を作ろうと思ったそうです。川でつながる発表会の場で「不老川のうた」を発表できることが嬉しいとの思いが伝えられました。合唱は、水に関わる歌として「ふるさと」、「不老川のうた」の2曲が披露されました。会場のみなさんは、きれいな歌声、演奏に聞き入っていました。



不老川流域川づくり市民の会 丸橋さんによるコメント

発表後にコメントータから各発表者へ、以下のようなコメントがありました。



④明法中学高等学校科学部に対するコメント

科学で心を一つにして部活で取り組んでいる姿勢に感銘しました。私たちも普段は同じような活動をしています。川を歩きながら、ここがいい、悪いと言いながら写真をとったり水を調べたりしています。調査で、いい、悪いと感じた点は、水質や写真とつなげて一つにまとめていくこと、また、過去から水がきれいになった点は、なぜきれいになったかも調べて頂くように取り組んで欲しいと思います。

⑤川越市立仙波せんば小学校に対するコメント

すばらしい授業の成果であると思いました。場所によって水の状況が違ふこと、さらにそこから普段の生活の行動にまで繋げて考えている点は本当に素晴らしいと思います。自分が疑問に思ったこと、驚いたことが感想として発表されていましたが、このような経験はとても大事だとおもいます。これからも続けて頑張ってください。

⑥ふじみの少年少女合唱団/バーベナコーラス/赤い靴に対するコメントと質問

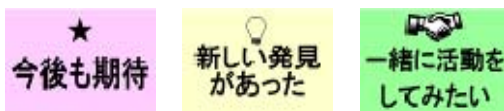
つながるという言葉は、川そのものだと思います。すべての川は山と海と空を繋げ、そして上流から下流の人たちも繋げ、そして、循環しています。今回、この会を通じてふじみの少年少女合唱団、バーベナコーラス、赤い靴の新たな繋がりも生まれていると思います。歌は一生の宝になるものだと思いますので、是非、いつまでも歌い続けてください。


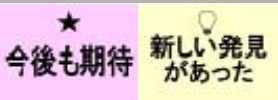

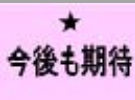

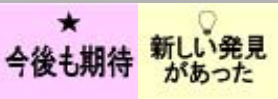

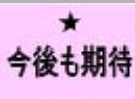

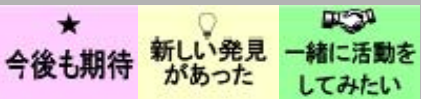

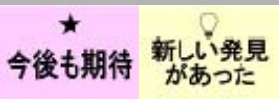


感想カード

各団体の発表の後、参加者のみなさんには、事務局が準備した感想カードから発表への感想に最も近いものを選んでいただき、発表者に向けて掲げていただきました。

<事務局が準備した感想カード>



<p>グリーン・フォレスト・ ネットワーク所沢 ／早稲田大学理工学術院</p>	 <p><多かった感想></p> 	<p>水文地理学研究室 法政大学</p>	 <p><多かった感想></p> 
<p>川越高等学校 埼玉県立</p>	 <p><多かった感想></p> 	<p>明法中学高等学校 科学部</p>	 <p><多かった感想></p> 
<p>川越市立 仙波小学校</p>	 <p><多かった感想></p> 	<p>ふじみ野少年少女合唱団 ／バーベナコーラス ／赤い靴</p>	 <p><多かった感想></p> 



○講演 ※積雪のため現地見学会を変更して実施

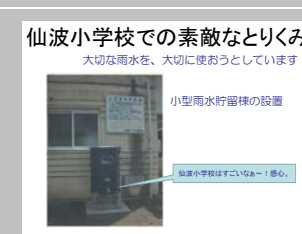
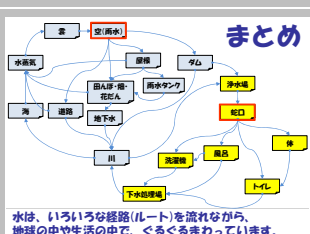
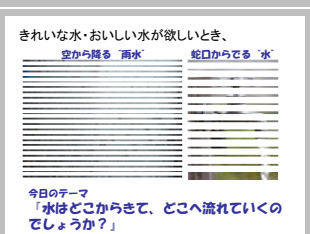
川越市周辺の新河岸川流域に関する歴史や水循環センターについて紹介！



積雪のため現場見学会は残念ながら中止となりましたが、かわごえ環境ネット武田さんより、新河岸川の歴史や生活との関わりの変遷について、見学予定であった浅間神社、愛宕神社、仙波河岸史跡公園の話も交えながら詳しく解説が行われました。また、新河岸川上流水循環センター関根所長から、見学予定であった水循環センターのこと、下水処理のことについて、写真、ビデオをつかって分かりやすく解説が行われました。また、最近工事中の調節池について、工事の方法の特徴や進み具合についても話題提供されました。参加者は、普段なかなか聞くことができない話に興味深そうに耳を傾けていました。

○交流会（総合治水対策・水循環授業）

総合治水対策・水循環について分かりやすく紹介！



川越市河川課の宮川さんより、水循環、総合治水対策をテーマとした講義が行われました。自然の中では、雲から雨が降り、川を流れて海に注いで、蒸発して再び雲になるといった水の流れがあります。私たちはその水の流れの中で、川から水をとって浄水場で水をきれいにして使用し、使用して汚れた水は下水処理場できれいにしてから川に戻しています。洪水は、降った雨が一度に川に流れ込むことで発生し、新河岸川流域においても身近な問題です。昔は田畑が多く、降った雨がすぐには川には流れなかったのですが、現在はコンクリート等で地面が覆われており、すぐに雨水が川に流れ込みます。仙波小学校をはじめ市内の施設では、雨水貯留施設を設置し、雨水を一時的に貯めて、一度に川に水が流れ出ることを防いでいます。



○交流会（パネル展示・クイズラリー）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！



川越市立仙波^{せんば}小学校の体育館の入口付近がパネル展示場となりました。発表団体、行政、川づくり団体、地元の学校などに協力して頂きました。特に今回のパネル展は、新河岸川^{しんがし}で見られた鳥の写真、雨水貯留浸透^{しんとう}マスなどユニークな展示物もあり、参加者の興味を集めていました。また休憩時間には、展示パネルの内容や発表内容が回答となっているクイズラリーの答えを探しまわり、詳しくそうな大人をつかまえて交流している子どもの姿も見られました。



パネル展示の様子

◆展示いただいた団体◆

- 北区立岩淵いわぶち小学校
 - NPO 法人エコシティ志木
 - かわごえ環境ネット
 - 川越の魅力を育てる会
 - グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢
 - 埼玉県南部漁業協同組合連合会
 - 調節池を愛する会
 - 国土交通省 荒川あらかわ下流河川事務所
 - 埼玉県 川越県土整備事務所
 - (社)雨水貯留浸透技術協会
 - 新河岸川しんがし流域川づくり連絡会
- (順不同)



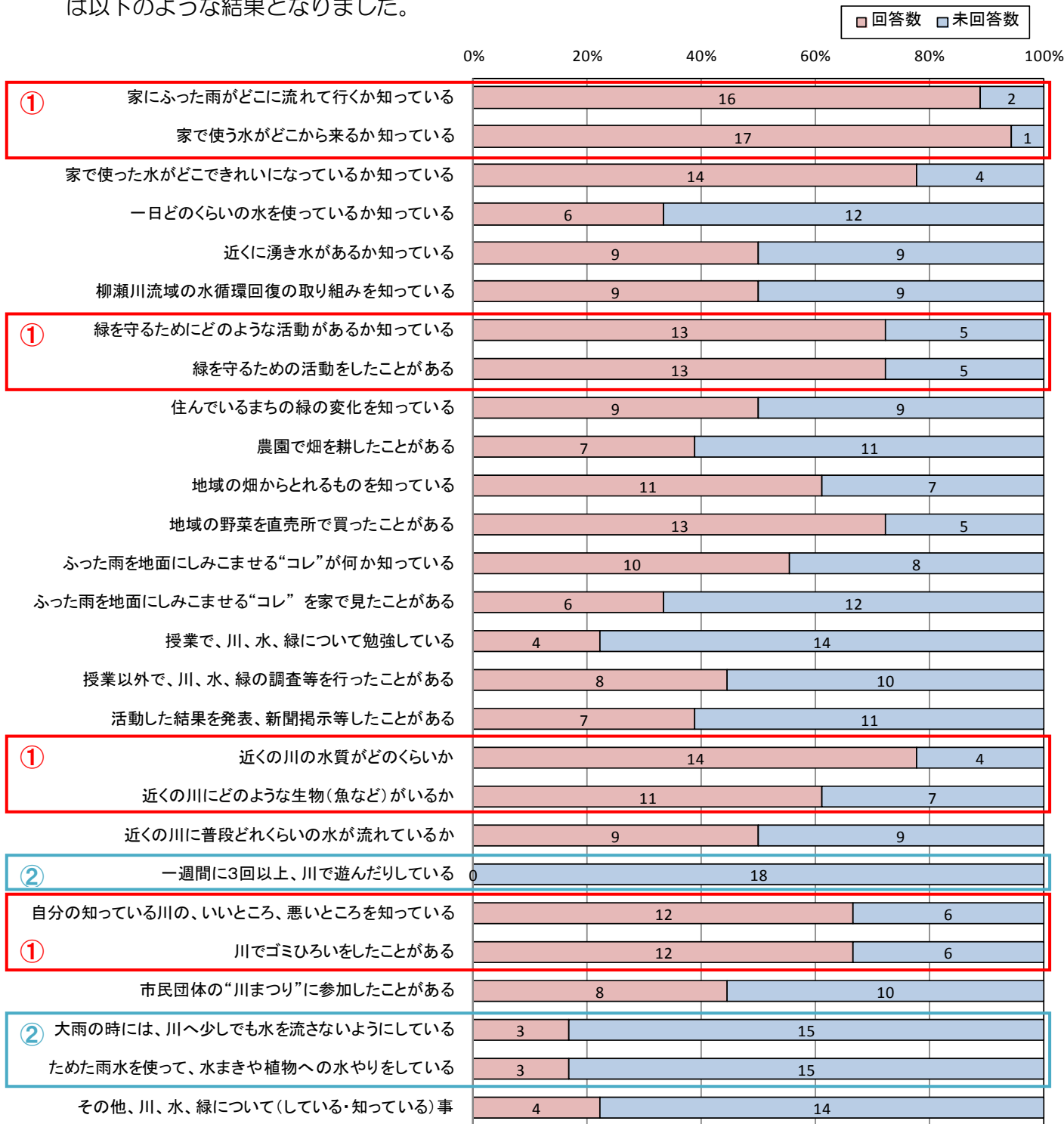
新河岸川流域川づくり連絡会ブースでは、川越市内の河岸場の昔と今の写真が比較できるパネルも展示しました。

会場内では、参加者のみなさんから“流域のみんなが考える水害を減らすために”というテーマで、取り組みたいことや取り組んでいること、それらを伝える方法に関するご意見をいただきました。



新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）結果

参加者の方々が、「水循環再生についてどのくらい知っているか?」、「水循環に関する活動をどのくらいしているか?」について回答いただいた「新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）」は以下のような結果となりました。



①地域の水循環・緑地保全・河川（水質・生物等）に関する理解、緑地保全・河川清掃に関する取り組みについては、比較的高い値となっています。

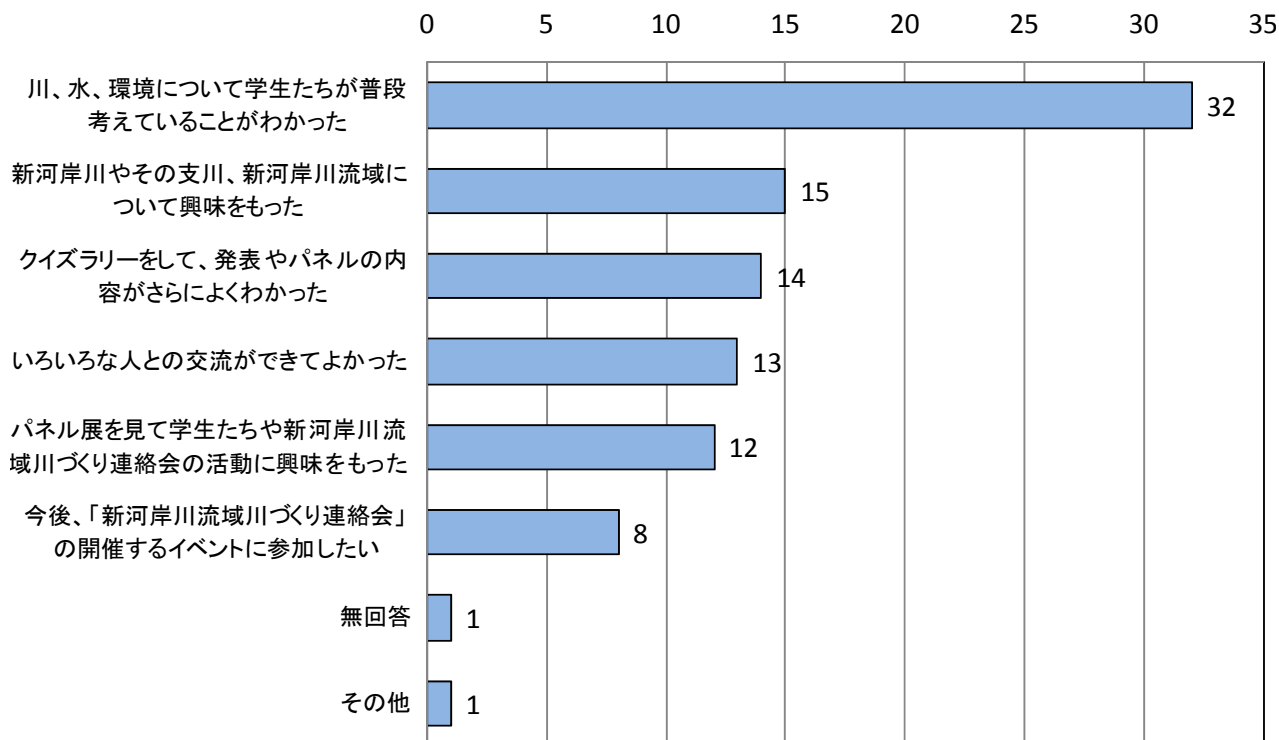
②河川利用や大雨への配慮、雨水利用については、比較的低い値となっています。



発表会を終えて（アンケート結果）

発表会についてどのような感想をおもちになりましたか？

(人)



◆参加者の声◆

- 川に関する様々な団体が活動していて、ますます川が美しく、楽しい場所になることを期待します。
- 川の発表という一つのテーマから、さまざまな発表となってすごいと思いました。
- 市民を活気づける活動としてとてもよい。
- 若い人たちが川に関心を持ち活動を続けていることに感心した。
- 地域の川で行われている活動や新河岸川の歴史しんがしについて知り、環境について改めて考えるきっかけになった。
- 川のことがよくわかった。



みなさん、本当にありがとうございました。発表会を通じて、新しく知ったことや新たなつながりを流域全体へとつなげていきましょう。

